

# ウェルズ恵子教授 略歴・主要著作目録

## 略歴

- 1958年 1月 神奈川県横浜市に生まれる  
(2月に東京都品川区へ転居、68年8月に横浜市へ転居)
- 1976年 3月 神奈川県立横浜翠嵐高等学校卒業
- 1976年 4月 津田塾大学学芸学部英文学科入学
- 1978年 9月 カリフォルニア州立大学ノースリッジ校留学 (1979年5月まで)
- 1979年 9月 カリフォルニア大学サンタクルーズ校留学 (1980年1月まで)
- 1981年 3月 津田塾大学学芸学部英文学科卒業
- 1981年 4月 津田塾大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程入学
- 1983年 3月 同大学大学院同研究科同課程修了
- 1983年 4月 就実高等学校非常勤講師 (1984年3月まで)
- 1987年 4月 神戸大学大学院文化科学研究科文化構造専攻博士課程後期課程入学
- 1987年 9月 同大学大学院同研究科同課程中途退学
- 1987年 10月 愛媛大学教養部専任講師 (1992年3月まで)
- 1992年 4月 立命館大学文学部英米文学専攻助教授 (2003年3月まで)
- 2000年 10月 カリフォルニア大学ロサンゼルス校 University of California, Los Angeles 研究滞在  
フルブライト 研究プログラム奨学金受給 (2001年9月まで)
- 2003年 4月 立命館大学文学部英米文学専攻教授
- 2007年 10月 ユタ州立大学 Utah State University (Logan, USA) 研究滞在 (2008年9月まで)
- 2012年 4月 立命館大学文学部国際コミュニケーション専攻教授  
(2020年4月から国際コミュニケーション学域英語圏文化専攻)
- 2014年 10月 ハンガリー科学アカデミー民俗学研究所 Institute of Ethnology Hungarian  
Academy of Sciences (Budapest, Hungary) 研究滞在
- 2019年 4月 ユタ州立大学 Utah State University (Logan, USA), アルバニア学研究所プリ  
シュティナ・オーラルヒストリープロジェクト Albanological Institute Prishtina  
Oral History Project (Prishtina, Kosovo) 研究滞在 (2019年9月まで)
- 2023年 3月 立命館大学文学部を定年退職

## I 著書

### 著書

- 『フォークソングのアメリカ：ゆで玉子を産むニワトリ』南雲堂，2004年。
- 『黒人霊歌は生きている：歌詞で読むアメリカ』岩波書店，2008年。
- 『魂をゆさぶる歌に出会う：アメリカ黒人文化のルーツへ』岩波ジュニア新書，2014年。
- 『アメリカを歌で知る』祥伝社新書，2016年。

『타는 태양 아래서 우리는 노래했네 : 힙합과 R&B 의 뿌리를 찾아서』(『魂をゆさぶる歌に出会う』  
2014 の韓国語版) Dolbegae, 2019 年.

#### 編著書

『ヴァナキュラー文化と現代社会』 思文閣出版, 2018 年 (「はじめに」 v-x, 「アメリカ黒人民話にみる  
〈語り〉の深層——ハーストンの『驟馬と人間』考」 87-112 頁, 「ヴァナキュラー文化として  
『赤ずきん』を読む」 115-138 頁, 「歌と言葉を取り戻すとき——失語からの復帰」 293-300 頁).  
『多文化理解のための国際英語文化入門』 丸善出版, 2022 年 (「はじめに・謝辞」 i-iii, 「ヴァナキュ  
ラー文学、歌と物語」 29-44 頁).

#### 編纂・解説

『アメリカ黒人霊歌 19 世紀・20 世紀初頭文献復刻集成』(全 4 巻+別冊解説) ユーリカプレス,  
2012 年.

『ミンストレルショーと音楽:アメリカ初期資料集成』(全 4 巻+別冊解説) ユーリカプレス, 2019 年.

#### 共著書

『多文化理解のためのアメリカ文化入門:社会・地域・伝承』 リサ・ギャバートと共著, 丸善出版,  
2017 年.

#### 共編著書

『南北アメリカの日系文化』 山本岩夫・赤木妙子と共編著, 2009 年 (「讃仏歌から聖歌へ、盆踊り  
歌へ:日系人の仏教信仰表現と歌」 94-11 頁, 「ハワイ日系人の記憶を求めて:民間仏教歌と  
精神的伝統」 190-208 頁, 「ハワイ日系人の超自然信仰と迷信」 [デニス M. オガワの翻訳]  
209-224 頁, 「あとがき」 313-315 頁).

#### 共訳書

『人狼伝説—変身と人食いの迷信について』 清水千香子と共訳, 人文書院, 2009 年.

『狼女物語』 ウェルズ恵子 (編・総説) / 大貫昌子 (訳) 工作舎, 2011 年.

#### 単行本 (分担執筆)

「化粧」『比較文化キーワード』 竹内実・西川長夫 (編), サイマル出版, 1994 年.

「アメリカの浮浪者民謡とその現代的意味」『世紀転換期の日本と世界 第 5 巻 / 文化の変容と再生』  
木村一信・奥村剋三 (編), 法律文化社, 1995 年, 74-87 頁.

「久米邦武の見たアメリカ」『米欧回覧実記を読む』 西川長夫・松宮秀治 (編), 法律文化社, 1995 年,  
39-57 頁 (第 2 章).

「アメリカ農民のフォークソング:怠慢クラブの歌をうたおう」『英語文化フォーラム:異文化を読む』  
音羽書房鶴見書店, 2002 年, 170-186 頁.

「歌ってあげよう、悲しい歌を:19 世紀のアメリカ民謡」『史料で読む アメリカ文化史 第 2 巻 /

- 独立から南北戦争まで 1770 年代-1850 年代』亀井俊介・鈴木健二（編集代表），荒このみ（編），東京大学出版会，2005 年，312-328 頁。
- 「黒人鉄道工夫、ジョン・ヘンリーの歌」『史料で読む アメリカ文化史 第 3 巻／都市産業社会の到来 1860 年代-1910 年代』亀井俊介・鈴木健二（編集代表），佐々木隆・大井浩二（編），東京大学出版会，2006 年，130-145 頁。
- 「ペン・センター、ヨーク・W・ベイリー博物館：アメリカで最初の黒人学校」『北米の小さな博物館 1』北米エスニシティ研究会（編）彩流社，2006 年，62-69 頁。
- 「西部への道」『アメリカ文化史入門』亀井俊介（編）昭和堂，2006 年，59-82 頁（第 3 章）。
- 「暴力的文化アイコンとしての『赤ずきん』物語」『暴力と人間存在』谷徹，今村仁司，マーティン・ジェイ，他（著）筑摩書房，2008 年，271-314 頁。
- 「モルモン教徒の「丘の上の町」：ユタ、パイオニア記念博物館」『北米の小さな博物館 2』北米エスニシティ研究会（編）彩流社，2009 年，212-219 頁。
- “The Role of Buddhist Song Culture in International Acculturation.” (Chapter 8) *Issei Buddhism in the Americas*. Duncan Ryuken Williams and Tomoe Moriya, eds. University of Illinois Press, 2010 : 164-181.
- 「恐怖を超えて希望へ：物語と、歌と音楽と」『バラク・オバマのことばと文学——自伝が語る人種とアメリカ』里内克巳（編）彩流社，2011 年，227-277 頁（第 5 章）。
- 「『アメリカ文学史講義』全三巻」（第 7 章），「『有島武郎——世間に対して真剣勝負をし続けて』」（第 8 章）『亀井俊介オーラル・ヒストリー：戦後日本における一文学研究者の軌跡』研究社，2017 年。

## II 事典（分担執筆）

- 『アメリカ文化事典』亀井俊介（編）研究社 1999 年，28 項目。
- The Encyclopedia of American Folklife*. Simon Bronner, ed. E. M. Sharpe, 2006. Vol. 1, “Buddhists”: 130-134.
- 『質的心理学辞典』能智正博（編集代表）新曜社 2018 年，1 項目「ヴァナキュラー文学」。

## III 論文・学術記事（単著）

- “Ezra Pound’s ‘The Seafarer’: Structure, Theme and Imagery.” 『論集』 (*Tsuda Inquiry*) 7 (1986) : 99-123.
- “The Translation of ‘Hagoromo’ by Ernest Fenollosa and Ezra Pound.” 『論集』 (*Tsuda Inquiry*) 8 (1987) : 72-90.
- 「パウンドとフェノロサによる能『杜若』の翻訳：杜若の花の解釈をめぐって」『愛媛大学教養部紀要』 21 (1988) : 57-74 頁。
- “Pound’s ‘Hagoromo’ as an Imagist Poem.” 『愛媛大学教養部紀要』 21 (1989) : 57-74 頁。
- 「イメージのあゆみ：エズラ・パウンドの詩を追って」『英語青年』 137. 7, 研究社 (1990) : 2-6 頁。
- 「カリフォルニア州の二言語二文化教育プログラム」『英語教育』 40. 10, 大修館書店 (1990)。
- 「H. D. 批評の変容と展望」『愛媛大学教養部紀要』 24 (1990) : 1-9 頁。

- 「Ezra Pound の能の翻訳・その “One Image” と “Ghost Psychology”」『論集』 *Tsuda Inquiry* 13 (1991) : 69-85 頁.
- 「月になった小野小町：パウンドとフェノロサによる能の翻訳とパウンドの小町像」『文学』 3. 2, 岩波書店 (1992) : 132-141 頁.
- 「十九世紀のカウボーイソングにカウボーイの生活と心情を探る」『立命館文学』 531 (1993) : 68-87 頁.
- 「アメリカ大陸横断鉄道と人々の暮らし：大衆文化史的観点から」『第 11 回調査・研究発表概要集』 東日本鉄道文化財団 (1994).
- 「アメリカ大陸横断鉄道の大衆文化史・鉄道民謡と人々の夢、暮らし」『神戸英米論叢』 8 (1994) : 141-195 頁.
- 「アメリカの鉄道民謡：鉄道が楽園への道になるまで」『英語教育』 45. 1, 大修館書店 (1996) : 42-45 頁.
- 「アメリカ南部民謡、ハンマーソング：ジョン・ヘンリーになりたくなかった男たちの歌」『立命館言語文化研究』 8. 2 (1996) : 73-89 頁.
- 「アメリカの鉄道と大衆の歌・鉄道が生んだ恋と葛藤と別れのドラマ」『鉄道史学』 15 (1997) : 9-23 頁.
- “Japanese Folksongs Created by Child Nursemaids.” 『立命館言語文化研究』 9. 1 (1997) : 251-288 頁.
- 「アメリカ民謡と働く人々」(30 回連載) 『英語教育』 (1998 年 4 月～2000 年 9 月) 大修館書店
- 「(1) : 文化の多様性を映す民謡」 47. 1, 「(2) : カウボーイソング 1, A Cowboy's Life is a Dreary, Dreary Life」 47. 2, 「(3) : カウボーイソング 2, 野生に文化の安らぎを」 47. 3, 「(4) : カウボーイソング 3, 甘く、ほろ苦く、現実にはべールをかけて」 47. 4, 「(5) : カウボーイソング 4, カウボーイは何所へ」 47. 5, 「(6) : 黒人労働歌ハンマーソング 1, 死の予感の中から」 47. 6, 「(7) : 黒人労働歌ハンマーソング 2, 虹は立つのだろうか」 47. 8, 「(8) : 黒人労働歌ハンマーソング 3, ジョン・ヘンリー・バラッドの意味すること」 47. 9, 「(9) : 炭鉱歌 1, 歌でつながれた人々」 47. 10, 「(10) : 炭鉱歌 2, The Miner is Gone, We'll See Him No More」 47. 11, 「(11) : 炭鉱歌 3, 事故と迷信〈人生は夢〉」 47. 12, 「(12) : 炭鉱歌 4, 炭鉱の奴隷となって」 47. 13, 「(13) : 炭鉱歌 5, What Makes Us Strike?」 48. 1, 「(14) : 炭鉱歌 6, How Beautiful Union Must Be!」 48. 2, 「(15) : ゴールドラッシュソング 1, 苦難を笑う」 48. 3, 「(16) : ゴールドラッシュソング 2, I'm a Lousy Miner」 48. 4, 「(17) : ゴールドラッシュソング 3, クレメンタインと万次郎」 48. 5, 「(18) : 紡績歌 1, 最初の紡績工場と女工たち」 48. 7, 「(19) : 紡績歌 (2) …Bread and Roses」 48. 8, 「(20) : 船乗りと七つの海の歌 1, The Jolly Sailor」 48. 9, 「(21) : 船乗りと七つの海の歌 2, 力が出る歌」 48. 10, 「(22) : 船乗りと七つの海の歌 3, 歌の中の女性——娼婦と恋人」 48. 11, 「(23) : 船乗りと七つの海の歌 4, 歌の中の女性——船と自然」 48. 12, 「(24) : 船乗りと七つの海の歌 5, 時間、空間、人種を超えて」 48. 13, 「(25) : 船乗りと七つの海の歌 6, 3つのアーキタイプ」 49. 1, 「(26) : 船乗りと七つの海の歌 7, 鯨捕りのバラッド」 49. 2, 「(27) : 木こりの歌 1, 深雪の大森林と Shanty Boys」 49. 3, 「(28) : 木こりの歌 2, 冒険と死」 49. 4, 「(29) : 木こりの歌 3, 歌の系譜」 49. 5, 「(30) : 木こりの歌 (4) ——旅して生まれ変わり続ける歌」 49. 6.

- 「デモクラシーが生んだアメリカの詩人たち：トクヴィルの予言を検証する」『トクヴィルと現代／立命館人文科学研究紀要』72（1997）：87-101頁。
- （翻訳）ポール・ブイサック「仮面になる：顔のメイクアップと同一性の変容」『立命館言語文化研究』10（5・6合併号）（1999）：311-328頁。
- 「日本とアメリカ合衆国の労働民謡研究：比較文化史的視点から」『科学研究費補助金基盤研究（C）（2）1997～1999年度、研究成果報告書』2000年。
- 「フォースターの歌と望郷：「おお、スザンナ」のジョン万次郎訳を手がかりにして」『立命館文学／中原・児玉教授退職記念論文集』568（2001）：105-117頁。
- “A Study of Shin Buddhist Song Lyrics Sung in the United States: Their History and Expressed Buddhist Images (1), 1898-1939.” *Pacific and American Studies* 2. アメリカ太平洋地域研究センター（2002）：75-99.
- “A Study of Shin Buddhist Song Lyrics Sung in the United States: Their History and Expressed Buddhist Images (2), 1939-2001” *Pacific and American Studies* 3. アメリカ太平洋地域研究センター（2003）：41-64.
- 「日系・中国系アメリカ人の民謡調査と収集、および研究」『立命館大学術研究助成一般区分特定研究2, 2000～2001年度研究成果報告書』2003年。
- 「ハワイ島における民間仏教歌伝承：欠落をイメージに希求する女性たち」『アメリカ研究』38（2004）：103-122頁。
- 「アメリカ黒人霊歌の世界：初期収集者たちとテキスト」『立命館法学別冊 ことばとそのひろがり3／山本岩夫教授退職記念論集』（2005）：49-75頁。
- 「アメリカ黒人霊歌：フィスク・ジュビリー・シンガーズの成立と歌」『立命館言語文化研究』17.1（2005）：171-191頁。
- 「歌はどこから——黒人霊歌資料にアメリカの意識を追う」『立命館言語文化研究』17.2（2006）：149-165頁。
- 「アメリカ宗教民謡の比較文化研究：讃仏歌と黒人霊歌に見る文化融合と大衆的創造」『科学研究費補助金基盤研究（C）（2）2002～2004年度研究成果報告書』2006.
- 「黒人霊歌の現代：ゴスペルソングの始まり」『立命館言語文化研究』18.2（2006）：173-185頁。
- 「恐怖の鎖を解くために：ジョンソンとオダムの黒人霊歌集」『文学』岩波書店8.1（2006）：236-249頁。
- 「喪失の痛みを抱いて、ブルーズへ：ブラインド・ウィリー・ジョンソンとローバート・ジョンソン」『立命館言語文化研究』19.2（2006）：191-211頁。
- 「幻のブラック・クレオールソング・プロジェクト：ハーン、クレイビール、ケイブル」『文学』岩波書店10.4（2008）：76-87頁。
- 「〈ブルーズ君〉の語ること：初期カントリーブルーズの歌詞を読む」『文学』岩波書店11.6（2009）：88-106頁。
- 「笑いと回復のための語り：ゾラ・ニール・ハーストンの『驟馬と人間』を読む」『立命館言語文化研究』23.1（2010）：15-29頁。
- 「外国語の文学・文化を研究する」『立命館大学文学部コミュニケーション学域研究入門資料集』（2012）：17-54頁。

- 「Folktales を読む：物語の力」『立命館言語文化研究』25.3 (2013)：23-40 頁.
- 「アメリカは歌う、陽気に、力強く——近代化の渦の中で」『Vintage Clothing 古着屋さん』1037 (2013)：16-33 頁.
- “Variations and Interpretations of the Japanese Religious Folk Ballad, ‘Sansho-Dayu,’ or ‘Princess Anju and Prince Zushio’(1)：The Narrative Tradition Kept by Visually Impaired Minstrels.” *Journal of Ethnography and Folklore, New Series* 1-2(2015)：5-27.
- 「アメリカ奴隷制時代の歌を研究すること：黒人歌の創造性を見きわめるために」『黒人研究』85 (2016)：35-44 頁.
- 「ヴァナキュラー文化としての『赤ずきん』：少女と暴力の物語」『立命館言語文化研究』28.1 (2016)：101-114 頁.
- “Variations and Interpretations of the Japanese Religious Folk Ballad, ‘Sansho-Dayu,’ or ‘Princess Anju and Prince Zushio’(2)：The Theatrical Tradition in Ningyo-Joruri (Puppet Plays) and Kabuki (Classical Dance-and-Music-Drama).” *Journal of Ethnography and Folklore, New Series* 1.2(2017)：102-118.
- “Variations and Interpretations of the Japanese Religious Folk Ballad, ‘Sansho-Dayu,’ or ‘Princess Anju and Prince Zushio’(3)：Re-Creation in Modern Fiction, Film, and Children’s Literature.” *Journal of Ethnography and Folklore* 1.2(2018)：44-67.
- 「ヴァナキュラー文学の研究：定義・課題・提言」『立命館言語文化研究』30.4 (2019)：133-148 頁.
- 「都と異界の狭間、深泥池・市原野・鞍馬・貴船：矛盾からの再生」『立命館大学人文科学研究所紀要』122 (2020)：243-251 頁.
- 「〈黒人は何を歌ってきたのか〉が差別的質問になりうるワケ：〈黒人の歌〉のイメージからの脱却」『現代ビジネス』講談社 (2020.8) オンラインマガジン.
- 「大坂なおみが巻き起こした〈大議論〉の意味：そして、黒人の歌に訪れる新時代とは」『現代ビジネス』講談社 (2020.9) オンラインマガジン.
- 「アフリカン・アメリカンの歴史と音楽：奴隷制以前～1910年代のアメリカ黒人音楽——制度的暴力の巨石の下から」『ミュージック・マガジン』8月号52.9 (2020)：36-41 頁.
- 「大統領選で真っ二つのアメリカ、〈分断〉から何が生まれるのか：〈歌〉という視点から考えてみると…」『現代ビジネス』講談社 (2021.1) オンラインマガジン
- 「幸せになりたい人の炎の声：ジャニス・ジョプリンとブルーズ」『文藝別冊：ジャニス・ジョプリン』河出書房新社 (2021)：90-101 頁.
- 「100年生きたラブソング：恋歌の系譜と1920～30年代ブロードウェイ・ミュージカルの歌詞」『立命館言語文化研究』33.3 (2022)：249-265 頁.

#### IV 書評、総説、解題

- 「キャサリン・ギャラガーの『他の世界から見た第二次世界大戦』」(解題)『思想』岩波書店 984 (2006)：95-97.
- “*Japanese Singers of Tales: Ten Centuries of Performed Narrative* by Tokita.” (Book Review) *Folk Music Journal*. 11.1(2015)：82-84.

「オサジェフォ・ウフル・セイクウ『アーバンソウルズ』新教出版社」(書評)『図書新聞』(2022.6).

## V 紀要小特集編集、序論・総論・巻頭言

『グローバル化時代の日本語：その感性と活力』『グローバル化時代の日本語：その感性と活力』(西山淳子と共同)『立命館国際言語文化研究』22.2(2009).

『語りえない人々の語りに関する超域的研究』『〈語られたこと〉と〈語られなかったこと〉』『立命館言語文化研究』23.1(2011).

『語りえぬものの語り』『〈語りえぬものの語り〉について』『立命館言語文化研究』25.3(2013).

『日本とアメリカ、歌の架け橋：ステイーブン・フォスター歌曲の受容と展開』『はじめに』『立命館言語文化研究』26.1(2013).

『流体としてのことば、文化、地域』『はじめに』『立命館言語文化研究』28.1(2016).

『交流と再生の地、京都：よみがえりの都市としての相貌』『巻頭言』『立命館大学人文科学研究所紀要』122(2020).

『コロナ禍における通訳の現状と課題：コミュニケーションの本質と外国語使用および習得に関する洞察を求めて』『趣旨と概要』『立命館言語文化研究』33.2(2021).

## VI 講演、学会口頭発表・シンポジウム、ラジオ講座ほか

「エズラ・パウンドのミューズと『羽衣』の天女」第9回日本エズラ・パウンド協会全国大会(1987.10).

「フェノロサとパウンドによる能『杜若』の翻訳：杜若の花の解釈をめぐって」中・四国アメリカ文学会第17回大会(1988.6).

「フェノロサとパウンドによる能の翻訳：『愛の劇』8作の特徴」日本アメリカ文学会第28回全国大会(1989.10).

「エズラ・パウンドの小野小町像」第15回日本エズラ・パウンド協会全国大会研究発表(1993.10).

“Japanese Nursery Rhymes.” American Folklore Society Annual Meeting(1995.10).

「鉄道はなぜドラマティックか：アメリカの鉄道と大衆の歌」鉄道史学会第13回大会講演(1995.10).

“Japanese Folksongs Created by Child Nursemaids.” Occidental College Anthropology Department Special Lecture (Occidental College, Los Angeles)(1996.4).

“How Do You Leave ‘Ego’ Behind?: True Pure Land Buddhist Songs and Activities in Los Angeles.” American Folklore Society Annual Meeting(2002.10).

「アメリカにおける仏教寺の文化活動：ロサンゼルス洗心寺の場合」立命館大学アトリサーチセンター講師(2002.11).

「ハワイの民間口承仏教歌：日本語を綴れない詩人たち」立命館大学土曜講座(2003.5).

“Japanese American Buddhist Folksongs.” Issei Buddhism Symposium (University of California, Davis)(2004.9).

“The Power of the Story.” Special Lecture at Utah State University, Department of English(2008.3).

“Two Approaches to the Oral Texts of Black Religious Folksongs.” Utah State University English Speaker Series Lecture(2008.9).

- 「“Hope over Fear”：バラク・オバマの『自伝』を読む」日本アメリカ文学会関西支部大会 シンポジウム 講師 (2009. 12).
- 「20 世紀不況の時代における盲目の黒人辻説教師とブルーズシンガーたち：〈声の詩〉の特質を探る」「ノイズ——耳の文学」研究会 パネリスト (岩波書店) (2010. 2).
- 「語りえない人々の〈語り〉に関する一考察」サントリー文化財団助成金研究成果中間報告会, サントリー文化財団 (2010. 2).
- 「音楽文化の移動を促す力について」日本アメリカ史学会第 7 回 (通算 35 回) 年次大会 シンポジウム「越境する音楽」でのコメント (2010. 9).
- “ ‘My Darling Clementine’ in Japan and Korea: A Comparative Study of Song Lyrics.” 41<sup>st</sup> International Ballad Conference of the Kommission fur Volksdichtung (Universidade do Algarve: Faro, Portugal) (2011. 6).
- 「狼に変身する女たち～人間と動物」立命館大学土曜講座「女性と変身」(2012. 1).
- “ ‘I’ve got the blues’: The Symbolic Usage of ‘Blues’ in African American Folk Songs.” 42<sup>nd</sup> International Ballad Conference of the Kommission fur Volksdichtung (Hacettepe University Center for Traditional Musical Culture: Akyaka, Turkey) (2012. 10).
- 「『ウサギとカメ』——イソップ、日本、アメリカ黒人版」立命館大学土曜講座「いまにも生きる民話の力」(2013. 11).
- 「マイケル・ジャクソンの歌詞を読む」日本比較生活文化学会第 29 回全国大会 講演 (2013. 11).
- 「亀井俊介先生パーソナル学問史 オーラル・ヒストリーの記録『アメリカ文学史』」岐阜女子大学デジタルアーカイブ企画 インタビューアー (岐阜女子大学) (2013. 11).
- 「フォークテイルの面白さ：『赤ずきん』の真実を読む」立命館大学文学研究科英語圏文化専修設立記念連続講演会「流体としてのことば、文化、地域」(2014. 1).
- 「亀井俊介先生パーソナル学問史 オーラル・ヒストリーの記録『有島武郎』」岐阜女子大学デジタルアーカイブ企画 インタビューアー (岐阜女子大学) (2014. 3).
- “Variations and Interpretations of Japanese Folk Religious Ballad, ‘Princess Anjyu and Prince Zushioh’.” 44th International Ballad Conference of the Kommission fur Volksdichtung (University of Pecs: Pece, Hungary) (2014. 6).
- 「奴隷制時代の歌を研究すること：言語と音楽による Expression, Suppression と Communication」(暴力的依存関係下での歌：生存を支える美意識) 黒人研究会第 61 回全国大会「シンポジウム：アメリカ合衆国の奴隷制廃止 150 周年」(キャンパスプラザ京都) (2015. 6).
- 「伝承歌を研究すること：アメリカ黒人霊歌にみる〈表現〉言説の壁と向き合いつつ」日本カレドニア学会 2015 年度大会 講演 (キャンパスプラザ京都) (2015. 10).
- 「マイケル・ジャクソンと黒人文化のルーツ：多文化理解への道筋を探る」国際理解教育研究会 講演会 (アルカディア市ヶ谷/私学会館) (2016. 6).
- 「ゴスペルソングとブルーズ 歌詞研究の立場から」同志社大学アメリカ研究所 春季公開講演会 (同志社大学) (2016. 7).
- “Lullabies Created by Child Nursemaids in Japan: Lyrics that Express Observations and Emotions of Peasant Children in Labor.” Special Lecture at University of Ljubljana, Faculty



- of Arts, Department of Asian and African Studies (University of Ljubljana: Ljubljana, Slovenia) (2017. 5).
- “Variations and Interpretations of Japanese Folk Religious Ballad, ‘Princess Anju and Prince Zushio’: 800-year tradition.” Special Lecture at the Institute for Ethnomusicology, Scientivid Research Center of the Slovenian Academy of Sciences and Arts (Institute for Ethnomusicology, Scientivid Research Center of the Slovenian Academy of Sciences and Arts) (2017. 5).
- “Variations and Interpretations of the Japanese Folk Religious Ballad, ‘Sanshō-Dayū,’ or ‘Princess Anju and Prince Zushiō’(2): The Theatrical Tradition in Ningyō-jōruri (puppet plays) and Kabuki (classical dance-and-music-drama).” 48th International Ballad Conference of the Kommission fur Volksdichtung (International Puppet Museum *Antonio Pasqualino*: Palermo, Italy) (2017. 5).
- 「音楽から人権を考える：アフリカ系アメリカ人の歌」平成 29 年度人権問題都民講座（東京都人権プラザ）（2017. 9）.
- 「アメリカの多様なハロウィン」丸善京都本店講演会（2017. 10）.
- 「アメリカの歌——源流を探る」京都市市民講座「虹の探求／多用の表現を探る」（京都市北いきいき市民活動センター）（2018. 2）.
- 「『山椒大夫』の広がりと変遷：声、舞台、文学、映像」日本バラッド協会第 10 回大会 講演（愛知学院大学）（2018. 3）.
- “Sad and Bitter Lullabies of Japan: Creation and Recreation of Child Nursemaids from Labor to Popular Culture.” Special Lecture at The Department of Language, Philosophy and Communication Studies, Utah State University (2018. 4).
- “Voice(s) and Gender in a Japanese Religious Ballad Cycle, *Sanshō Dayū* (*Sanshō the Bailiff*).” Special Lecture at Department of English, Utah State University (2018. 4).
- 「『ヴァナキュラー文化と現代社会』 アメリカは歌う：働く人々と歌のいのち」思文閣出版+朝日カルチャーセンター・京都講座（2018. 5）.
- 「ヴァナキュラー文学の研究方法：『ヴァナキュラー文化と現代社会』のエッセンスと主張」東大研セミナー「ヴァナキュラー文化研究の輪郭線—野生の文化を考える、野生の学問を考える（科研「パブリック・ヒストリー構築のための歴史実践に関する基礎的研究」）研究代表者：菅豊 第 8 回研究会」（東京大学東洋文化研究所・大会議室）（2018. 9）.
- 「ハワイに仏教歌を探して」NHK ラジオ第二放送「宗教の時間」（2018. 10）.
- “Japanese Folk Religious Song Narrative, Sekkyo-bushi, and Its Variations from 700-year Tradition.” Special Lecture at Institute of Albanology, Prishtina (Prishtina, Kosovo) (2019. 5).
- 「ハワイとサンフランシスコで出会った念仏者の歌と感動」鹿児島教区仏教婦人会連盟第二回実践運動研修会 講演（本願寺鹿児島別院・本堂）（2018. 10）.
- 「ハワイ島コナに念仏者の声を聞く：移民・開拓・戦争と女性の信仰」豊耳会仏教講座（本願寺広島別院 本堂）（2020. 2）.
- 「《声》の排除の 3 段階を黒人音楽に探る：奴隷解放から Black Lives Matter 運動まで」 「ジェノサ

- イド×奴隷制」研究会（立命館大学）（2020.12）.
- 「『をぐり』を魂の遍歴劇として読む：〈供養〉というモチーフの独自性について」中世関連文化研究会（立命館大学）（2021.9）.
- 「ヴァナキュラー文化とペルソナ」ヴァナキュラー文化研究会 仮面研究分科会（立命館大学）（2021.9）.
- 「*The Testament of Cresseid* by Robert Henryson を読む：中世ヨーロッパにおける罪と救済の描き方」中世関連文化研究会（2022.3）.
- 「黒人音楽の軌跡を辿る：歌は抑圧と抵抗を訴えるか」早稲田大学異文化交流センタートークセッション 講演（2022.6）.

## Ⅶ エッセイ、その他

- 「わびの伝統と自己表現：日本陶芸の〈国際化〉をめぐる」『陶説』442 日本陶磁協会（1990）：30-32 頁.
- 「窯焚きと松の木」『陶説』（日本陶磁協会）444 日本陶磁協会（1990）：31-33 頁.
- 「一個の器に：やきもの風景小論」『陶説』449 日本陶磁協会（1990）：27-30 頁.
- 「W 氏との結婚」（5 回連載）『ラ・メール』思潮社（1990.1, 1009.7, 1991.4, 1991.7, 1992.10）  
「(1) 不安な名前」27, 「(2) 大晦日の夜」29, 「(3) 不安な名前、その後」32, 「(4) 過去から眺めてみれば」33, 「(5) 名前と義手と」38.
- 「桶屋の四つ角」『ラ・メール 特集〈狂気〉』28. 思潮社（1990.4）：56-57 頁.
- 「子連れフルブライト海外研究員報告」フルブライト海外研究員ニューズレター（2004）.
- 「アラン・ダンディスの急逝を悼む」『英語青年』151.4（2005）：250-51 頁.
- 「スコットランド民謡の越境性と土着性をめぐって」『日本カレドニア学会 Newsletter』55（2015）：1-2 頁.
- 「春の吹雪に北米大陸開拓を思う」『鴨東通信』106. 思文閣出版（2018.5）：16-17 頁.
- 「倒れた少女」月刊『潮』2018 年 8 月号. 潮出版社（2018.7）：30-31 頁.
- 「スティーヴン・フォスター作品集に寄せて：世界の耳と心をつなぐリボンのような歌を」*Dear Friends and Gentle Hearts: The Songs of Stephen Foster*. Railway Records（2021）：34/94-36/97 頁.
- “How Does Kosovo Look to a Japanese Woman?” *Balkan Insight*（2019, May 31）Online Journal.
- “Here I come! The first trip to Kosovo of a Japanese: Ja ku jam! Mbresa nga udhëtim i parë i një japonezeje në Kosovë.” *KultPlus*（2019, Jun 23）Online Journal.
- 「歌詞を研究してきたと思うこと」『黒人研究学会会報』88（2019.9）：5-6 頁.
- “Moved by the Songs of African Americans.” *RADIANT: Ritsumeikan University Research Report 2020-2021*.（2021.12）.